市職員人事異動

44人と小規模

退職10人、新規採用36人

市は、このほど四月一日付「職員人事異動」を発表しました。

今年は六～七月頃に機構改革（六月議会に提案）に伴う異動が予定されており、今回の異動は総数四十四人と、昨年の半分以下という小規模なものとなりました。

また、永年市に貢献された土居繁子さん十人が退職され、行政九、土木技師三、保母十、技能職六、幼稚園教諭二、看護婦一、司書一、消防士四の三十六人が新規採用となりました。

■退職

▼土居繁子（十市支所・勤続三十一年）▼溝渕原巳（少年補導センター・同三十年）▼池添千枝子（大淡保育所・同二十九年）▼宮原信子（十市支所・同二十七年）▼吉川寿美（久礼田保育所・同二十七年）▼山岡多恵子（里保育所・同二十六年）▼武田勝（教育委員会社会教育課・同二十三年）▼元吉勉（水道局・同二十一年）▼山本常井（大淡小学校・同二十年）▼金堂一三（南部福祉館・同二十年）

■係長

▼教育委員会少年補導センター所長＝竹崎公一（税務課主事）▼同和対策課南部福祉館長＝長尾征洋（福祉事務所主事）

■主事

▼市民課＝浜田誠四郎（産業経済課、十市支所＝前田律子（市民課）▼同和対策課＝中島知津子（公害環境課）▼管理課＝中田美恵（市民課）

■保母

《所長》

▼後免保育所＝猪野重子（久礼田保育所長）▼東部保育所＝西原和喜子（後免保育所長）▼国府保育所＝加藤光子（明見保育所保母）▼久礼田保育所＝藤田浅子（東部保育所長）▼明見保育所＝森本敏子（国府保育所長）▼里保育所＝松村節子（明見保育所長）▼大淡保育所＝永森雅枝（大淡保育所主登）

《保母》

▼後免保育所＝村上直子（岩村）西岡さゆり（大篠）▼西部保育所＝吉田操（大篠）浜田三代子（後免）赤坂誠子（里）筒井久代（大淡）▼国府保育所＝星沢一子（西部）▼岡豊保育所＝宮地敬子（後免）▼岩村保育所＝野村幸子（西部）▼稲生保育所＝島内信子（大篠）森本幸子（大篠）▼あけぼの保育所＝大前貞子（大淡）▼大篠保育所＝吉野弘子（十市）岩崎千恵（西部）古谷美生（大淡）▼大淡保育所＝大崎美津（あけぼの）北村喜美子（西部）▼明見保育所＝島末久恵美（稲生）▼里保育所＝島崎明美（国府）

■技能職

▼後免保育所＝川久保綾子（里保育所）▼久礼田保育所＝吉岡重子（西部保育所）▼大篠保育所＝岩崎暁美（明見保育所）▼明見保育所＝西内陽子（後免保育所）▼稲生小学校＝沢村恵美子（十市小学校）▼大淡小学校＝根須節子（後免野田小学校）▼十市小学校＝川添よし（白木谷小学校）▼三和小学校＝松木起己子（稲生小学校）▼後免野田小学校＝井上出枝（三和小学校）▼岡豊小学校＝下田豊（久礼田小学校）▼国府小学校＝西村利子（岡豊小学校）▼久礼田小学校＝藤原サトシ（国府小学校）

■新採用

《行政》

▼税務課＝山田浩司（廿枝）恒石真理子（野市町）▼市民課＝島本佳枝（立田）橋村由美（岡豊町）▼福祉事務所＝川村英嗣（中谷）▼産業経済課＝蓮沼隆（郡馬県）▼建設課＝吉永司（吉川村）▼教育委員会市民体育館＝野島利夫（下末松）▼水道局＝谷岡潔（土佐清水市）

《土木技師》

▼産業経済課＝近森弘明（香我美町）▼建設課＝松下和仁（浜改田）森下新一（廿枝）

《保母》

▼後免保育所＝浜田真弓（田村）▼西部保育所＝岩本寿美（高知市）坂本佐津喜（東崎）▼久礼田保育所＝大谷美智恵（小篭）▼岡豊保育所＝山添寒子（高知市）▼十市保育所＝松下由里（久枝）▼あけぼの保育所＝門田由美（十市）▼大篠保育所＝梅原綾乃（高知市）▼大淡保育所＝有瀬洋子（立田）▼里保育所＝豊永真理（後免町）

《技能職》

▼西部保育所＝柳瀬智喜子（久礼田）▼稲生保育所＝森下朱美（廿枝）▼里保育所＝竹村美智（下野田）▼大篠小学校＝石沢篤子（篠原）▼三和小学校＝植野律子（東崎）▼長岡小学校＝中村延子（下野田）

《幼稚園教諭》

▼白木谷幼稚園＝田村由香（高知市）▼瓶岩幼稚園＝野村美加（野市町）

《看護婦》

▼公害環境課＝岡崎忍（岡豊町）

《司書》

▼教育委員会市立図書館＝細川明美（上野田）

《消防士》

▼消防署＝山下道雄（東崎）山田靖仁（廿枝）野島泰裕（下末松）坂本仁（東崎）

海外派遣に関心のある方へ

青年の船など、青年の海外派遣要綱が、このほどできあがりました。参加申込期限が四月二十三日となっていますので、希望される方は、至急、市教育委員会（☎③2111）か、県庁、県民生活課（☎㉓1111）までおたずねください。

【教育委員会】

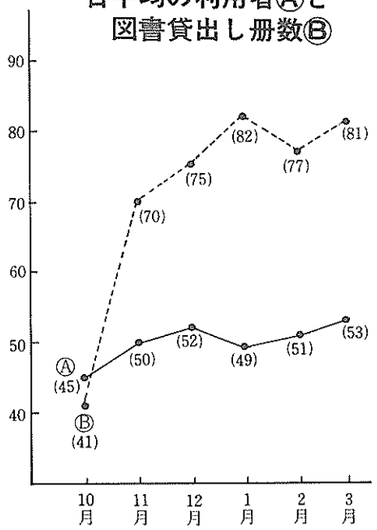
蔵書数八千五百十冊に

～市立図書館～

南国市に図書館ができてはや六カ月――市立図書館ではこのほど、昭和五十四年度末現在の図書蔵書数や図書館利用者数、貸出し冊数などをまとめました。

これによると、開館当時七千三百二十八冊でスタートした図書も、六カ月後の三月三十一日には八千五百十冊に増えています。なかでも文学、児童図書が多く、次いで歴史、社会科学の順となっています。また、寄贈図書は半数の四千二百五十三冊となり、市民のみなさんのご協力がいかに大きかったかがわかります。

一日平均の利用者Ⓐと図書貸出し冊数Ⓑ



図書館利用者についても、六カ月で七千五十九人となり、一日平均五十一人の来館となりました。

《市民なら誰れでも利用できます》

■場所＝市役所北側、旧水道局跡一階（東崎一三五五）

■貸出＝二週間で四冊まで、市民なら誰れでも貸りることができます。一般の方は身分を証明するもの（運転免許や保険証など）が必要です。

《ご寄贈感謝します》

貴重な図書をありがとうございました。よろしければ、今後も引き続きお願いします。（敬称略）

◇森尾晃一（東崎）◇中屋宏二（枝）◇吉本昭平（堀の内）◇棚野幸子（大埇）◇森本博氏・マリ子（朝日町）◇武市磬（大埇）◇森尾総（十市）◇松尾しず（東崎）◇大篠村史編集委員会◇山本ゆか（下島里）◇島崎秋水（大埇）◇藤本茂樹（田村）◇池川貴美子（東崎）◇入交好脩（東京都）◇武樋信（岡豊町）◇島井康夫（下末松）◇吉川さだ子（西野田）◇その他匿名希望者多数

【市立図書館】

利用者では、一般女性（主婦など）が最も多く、次に一般男性、子ども（女子）の順となっています。

図書貸出し冊数では、延べ九千八百七十二冊で、一カ月に千六百四十五冊、一日に七十一冊平均となっています。（以上開館日数で計算）

図書の分類冊数

一般	総記	136冊
	哲学	264冊
	歴史	569冊
	社会科学	454冊
	自然科学	322冊
	工学技術	122冊
	産業	68冊
	芸術	270冊
	語学	89冊
	文学	2.663冊
	その他	1.105冊
児童図書		2.448冊

南国意外史〈3〉

嶺南会から市が芽ばえる

町村合併はどこでも新市町村を構成することになる町村が、推進の協議会を作って話を煮詰めた。

南国市も無論この方法で誕生したが、その芽生えは「嶺南会」の土壌があったため。また、この会を作るきっかけは一郵便局長の社交性からである。

南国郵便局の前身、後免郵便局の今田直美局長がその人で、実によく出歩いて管内の人たちに接触した。その際は欠かさず訪ねてくれ、いつか地域の人と〝話の場〟を作ろうということになった。やがて当時の後免町長、金堂久喜さんが力を入れて、嶺南地区の首長や議長、公私の職場で〝長〟の座にある人、また有志などを講成員として「嶺南会」が発足した。

この会はよくある〝飲み会〟ではなく、だいたい一カ月に一度集まって昼食しながら、職域関係の情報を出しあって知識を広めたり地域全体の生産性を向上させることを話しあった。

そのうちに「嶺南総合開発」という図式が生じた。それは町村単位では力が弱いから、町村民の福利を向上させる大事業ができない。町村が結集して一丸になる必要を特に町・村政担当者が感じるようになったためで、合併への胎動である。

従ってその後の合併推進の組織作りが、比較的スムーズに実現したということになる。

三谷勇喜（大埇）